

小説部門

応募
総数 **283** 作品

● 選考経過

一次選考通過

88 作品

二次選考通過

13 作品

最終選考候補

5 作品

選考委員

秋津 透、久美沙織、中村うさぎ



総評

秋津 透

えんため大賞も、第5回を迎えた。私は第3回からの中途参加だが、最終選考対象作のレベルは、年々、確実に上がっていると思う。しかも今回は、新人の作品とは思えないほどの完成度を備えた候補作が登場し、選考委員全員から高く評価され、大賞の授与が決定した。これは、えんため大賞が回数を重ね、賞として成熟し、力量のある人材が数多く集まり育ってきたという事実の証明だろう。大賞受賞作はもちろん、佳作の2編、編集部特別賞の1編、また、惜しくも受賞を逃した作品も、それぞれ傾向は違うものの、書き手の意志と熱意が強く感じられ、将来が楽しみな作品だった。これからも、それぞれ更に高いレベルを目指して、たゆまず力量を磨いてほしい。

久美沙織

昔は、賞に送られる作品には、バツグンのアイデアを持ちながら文章がヒドイものが多かった。昨今は、ネタに凝りすぎず、構成や文体でたくみに読ませてもらえるものが増えてきたように思う。パソコンやケータイの一般化で、日常的に他人と「文字」で交流するひとが増えたからだろうか。プロデビューにはむしろ後者のほうが向いている。驚天動地の発想は減多に出てくるものではないし、「おもしろさ」は教えようがない。しょぼいネタでも読ませる力には大きな価値がある。定番でありがちな設定を新鮮で魅力的な作品に昇華するのは、つまりは、笑うなよ、「愛」だ。妄想や執着は愛ではない。似たような行為も、純愛になりストーキングになり、愛情表現になったりセクハラになったりする。他人からどう思われるのか。その視点を欠いてはいけない。

中村うさぎ

今回、大賞受賞作に関しては、文句なく選考委員3名の意見が合致。ただし、他の3作品に対する意見はまっぴたつに割れたため、優秀賞なしの佳作2作という結果になった。ということは、1作品だけ飛び抜けており、後の2作は好みの分かれるところとなった、と考えていただいてよろしいかと思う。いや、「好み」というより、「ライトノベルとは何か」という定義の問題であったかもしれない。私は、ライトノベルであろうと何であろうと、それが「小説」であるからには、テーマの普遍性や感情移入できるキャラの造形が必要不可欠であると思う。面白かったけど心に何も残らないから読み終えてすぐブックオフ行き……そんな現状を打破する小説を私は望む。

大賞『吉永さん家のガーゴイル』

PROFILE
プロフィール

田口仙年堂
(たぐちせんねんどう)

千葉県で生まれる。明星大学を卒業後、劇団ダブルスチールの小間使いとして奴隷のように働かされる。

受賞の言葉

正直いまだに実感ないや。もしかして電話での狂喜乱舞っぷりに編集のM女史が「すいませんウソでした」って言うタイミングを失っただけなんじゃないか？ ……まあ、真実を告げられるまでの時間潰しに小説でも書くか。

作品紹介

商店街の福引きの景品として吉永家にやってきた「ガーゴイル」は、人間以上の感覚と知性、そして攻撃力を持つ、天下無敵の石像であった。彼は門番としてその持てる力を活かし、吉永家を襲う数々の敵を退治していくが、活躍を重ねるほどに自分に「人間の感情というもの」を理解する力が欠けていることを思い知り、悩みを募らせていくのであった。そんなある日、吉永家の末娘、小学生の双葉が誘拐されるという事件が起きる。門番としての責務を果たせなかったことを悔やむガーゴイルが取った行動とは？ はたして吉永家の平和の行方は？ ガーゴイルと吉永家の面々、そして町内の動物たちから人間までそれぞれの成長物語を温かいまなざしで活写した、全選考委員激賞のハートフルコメディ。

選評 秋津透

一読して、新人離れた完成度の高さに唖った。巧みな構成によってキャラクターの魅力を過不足なく描き出し、物語を丁寧に盛り上げていく手法の確かさは、まさに刮目に値する。しかも、技巧が先走って鼻につくこともなく、読後には、ほのぼのと自然な温かみが伝わってくる。この、確かな技巧と温かみのある視線の絶妙なバランスは、書き手として大きな財産だと思う。自分の感覚を大事にしながら、更なる創作に励んでほしい。

久美沙織

うまい。おもしろい。かわいい。飄々とした文体が楽しくて、どんどん先が読みたくなる。パパがカッコいいので座布団一枚。ちゃんとステキなパパやママのいるお話に飢えていた自分を発見(家庭が壊れていたり、親の出でこないものがどんなに多いことか!)。エピソードが愉快、うんちくもレベルが高く、飽きさせない。エイバリー少尉で号泣、星3つ。しかし泥棒の多いご町内だと思っていたら、しかるべき理由が用意されていたので、もう文句なし最高点。大好き。傑作です。

中村うさぎ

ほのぼの路線の作品である。はっきり言って「ほのぼの路線」は好きではないが、好きでないからこそ、私に「あざとさ」や「薄っぺらさ」を感じさせずに素直に感動させた本作は、かなりの完成度であると感じた。「ほのぼの」って難しいんですよ、皆さん。少なくとも私には書けん、恐くて。だが、この人の「ほのぼの」にはテクニックと魂があるから、こんなにも説得力を発揮できたのだと思う。「魂」は大事です。それがないと小説じゃない。

佳作『朱き女神の杜』

PROFILE
プロフィール

星 隈 真 野

(ほ し く ま ま の)

大分県日田市出身。鹿児島大学を一年留年したあけくち中退、という荒技をかまし、現在も鹿児島市に在住。とあるカレー屋さんの店長(アダ名)を兼務。弾けもしないギターを猫に聞いてもらうのが最近の趣味。

受賞の言葉

自分の書いた小説を店頭で手にするのが当面の目標。その次の本にサインをして知人に贈り、そこで初めて自分が作家になったと喜びたい。

作品紹介

駒王神社に併設された喫茶店では、安倍晴明の生まれ変わりを自称する少年・深川神楽が、古い売り物に女性客を呼び集めていた。超常の力と伶俐な頭脳、小悪魔のような性格を武器に裏家業「悪霊祓い」にせいを出す彼にとって、その程度のことは造作もないことなのであった。そんなある日、喫茶店の常連客・狩野天火が「悪霊祓い」の依頼にやってきた。8年前、母親とともにダムの中に沈んだ友人・純の魂を救って欲しいというのだ。死してなお、娘の魂に絡みつく母親の妄念を、神楽はどのように解放するのだろうか……。人々の心理の奥底を、せつなく描きあげた、クールでユーモラスなモダンファンタジー。

選 評

秋 津 透

真面目なのか、不真面目なのか。現実なのか、非現実なのか。境界が曖昧な現代を描いた、不思議な重さと軽さのある作品。ただし冒頭、説明不足のプロローグの後、いきなり解説がまるまる一節を占める構成は、非常に読みにくく、読者不在の印象を受けた。後半は比較的読みやすいので、余計惜しい。

久 美 沙 織

冒頭、いきなり大勢の女性名が出てきて区別がつかず、ややとつきにくいのが、神社の特殊事情を説明するところから一気におもしろくなった。痛ましい問題を無理にアッサリ解決しないところがいい。読んで楽しいお話ながら、きちんと深くモノを考えていて、意義深い作品になっていると思います。

中 村 う さ ぎ

私はこの作品を高く評価した。インチキ神社という設定も面白いし、人を救うことにシビアでクールな主人公にも好感が持てた。「安倍晴明の生まれ変わり」という、いかにもな設定も、この徹底して醒めたキャラによって救われている。この設定に寄りかかったベタベタのヒーロー像だったら私は評価しなかったろう。巧いと思う。

佳作『精霊紀界ディメンティア』

PROFILE
プロフィール

荒 川 要 助

(あらかわようすけ)

大阪で生まれ少年期を京都で過ごす。13歳からはずっと大阪に。近畿大学法学部卒。大手スーパーに入社。6年間勤めるが小説家を志して退社。現在はフリーター。

受賞の言葉

小説家になることを決意して、はや6年。こうして受賞のコメントを書ける日が来るとは、まさに感無量です。最近、暗い世相なので読後に爽快感が残る作品を、と心がけました。

作品紹介

突如襲ってきた大災厄から逃れるため、異世界に移住した地球人類。しかし移住先のディメンティアには人類そっくりの種族がすでに繁栄を誇っていた。両者が闘争と和解を繰り返すなか、地球人の龍児はひょんなことからディメンティアの一国家、トライデント王国の第二王女・アリスと出会う。魔王・レアンとともに、アリスの部下とさせられた龍児は、彼女を巡る陰謀に不本意ながら巻き込まれてしまったが、王国内部の単なる政権争いと思われた事件には両人類の思惑が絡んだ別の貌があり……。ふたつの文明の共存への葛藤を、少年少女の出会いと成長に重ね合わせた、疾走感あふれる異世界ファンタジーアクション。

選 評

秋 津 透

この作品は、勢いを評価する。キャラクターはかなり典型的で、世界設定も突っ込みどころ満載だと思うが、その中で、ひたすら楽しげに全力疾走する勢いの良さに、B級アクション映画のような荒削りな魅力を感じる。この勢いを保持したまま、丁寧な作品を造れば、広く支持される傑作が書けると思う。

久 美 沙 織

必要とされる場面や状況は理解できているが、それらをしかるべき雰囲気や描きさるだけの文体をまだ持ていない。情景はカキワリ的、キャラは記号的で、あまりに「いまどきの戦国自衛隊」。カッコいい絵柄や声優、音楽を得てアニメにすればウケるだろう。こういうのが好きなひともあるだろうな、とは思うが。地球側をもっと憎らしくして、ディメンティア側のさまざまな身分立場のひとたちの思想や行動とその相克を描いたほうが、読ませたのでは。

中 村 う さ ぎ

最終選考に残った五作品のうち、私がいちばん評価できなかった作品である。キャラも薄っぺらく、展開も予定調和だ。私はこの作品に「魂」を感じることができない。弱年齢層が軽く読める「わかりやすさ」は必要だが、「わかりやすさ」と「安易」は違うだろう。文章力はあるので、よりリアルな人間考察と描写を身につけて欲しい。

編集部特別賞『閉鎖師ユウと黄昏恋歌』

PROFILE
プロフィール

扇 智 史

(お う ぎ さ と し)

静岡生まれの京都在住。大学に在籍しながら小説家を志し、卒業に失敗し続けつつ執筆に励む。公募生活4年目にして今回の賞に滑りこむことに成功。

受賞の言葉

編集部特別賞ということで、ここまで来れたことを嬉しく思っています。ひとまずスタートラインには立ったようなので、後は走るばかり。マラソンは人生だと言いますが完走できるんでしょうか。

選 評

秋 津 透

主人公の選択の重さを正面から描写した点は、評価できる。しかし、選択される者、選択から漏れる者を含め、登場する女性キャラクターたちに外見以外の差異がみられず、主人公の選択に説得力が感じられない。重い作品にするのか、軽い作品にするのか、最後まで中途半端のまま終わってしまった印象がある。

久 美 沙 織

たとえば「少女」というコトバを安易に使いすぎ。さまざまな違う特質をもっと微妙に確かに伝える努力を。世界孔という設定のスケールのデカさと、物語の薄さやキャラの底の浅さが噛み合わない。破壊的なほど個性的な女子集団に比べて、男子があまりに脆弱すぎ。シリアスとギャグのバランスも一考のこと。

中 村 う さ ぎ

ふたりの女の子から好意を寄せられている優柔不断な主人公が、二者択一を迫られる……まあ、「青春恋愛物」の定番のような設定であるが、片方が「欲望のために他者を排除する」ようなキャラであれば、迷う必要はないではないか。こういう場合は双方の女を魅力的に描くべし。壮大な世界観も陳腐な恋愛の前では形無しである。

森 好 正

メディアミックス書籍部・編集長

「青春のうたうた」を正面から書こうとした心意気と凝った世界観により、編集部内で評価された作品である。ただし、選考委員の方々も記されているとおり、意余って力足らず、キャラクターの内面描写が水準まで届いておらず、特別賞とした。女の子が3人出てくるのだが、性格なり役割なりを整理して、主人公を巡る一種の三角関係としたほうが、ひとりひとりの内面に筆を割く余裕が出たかもしれない。「書ける」力はあるので、「書きすぎない」ことを覚えて欲しい。

コミック部門

応募
総数 320 作品

● 選考経過

コミック部門の最終選考候補は「月刊コミックビーム」のマンガ大賞入賞者がノミネートされます。

最終選考候補

10 作品

選考委員

呉 智英、しりあがり寿、永井 豪



総 評

呉 智英

今回の応募作は全体的に完成度が低かった気がする。今までなら読んだ瞬間、当選確実な作品が1〜2本はあったのだが、今回に関しては最後まで悩んだ。選ばれた2作品に関しては、まだ戦力として掲載されるレベルではないけれども、他の作品と比べれば、高い水準にあると思った。

しりあがり寿

技術的には結構高い人もいたんですけども、全体的にツメが甘く、もう少し読者のことを考えて欲しかった。選ばれた2作品に関しては、いずれも個性的で楽しめるものはありますが、その個性が一般的なレベルで花開くには、多少の時間と努力が必要かと思っています。

永井 豪

昨年と比べて、全般的に低調でした。近年の傾向である内向的な作風が、相変らず目に付きました。漫画を描く作業は確かに、引き篭もることではあるんですが……自分のためだけに描いてるような印象すら受けます。従って、元気のない作品が多い。まあ、不景気ということもあるんでしょうけど、もう少しパワフルな作品を期待したいです。そんな中でも受賞した2作品は外に対して向かっていく力を感じたので押しました。

佳作『欲望という名のファミレス』全24P

PROFILE 小森谷 寛
プロフィール (こもりやひろし)

茨城県在住。

受賞の言葉

この間まで肺炎で寝込み、現在、下痢で寝込んでおります。ロクなことがない最近ですが、この賞の受賞で一条の光明が差したような気がします。

作品紹介

いつもファミレスでブラブラしている高校生の4人。ある日、いつものように雑談の最中、1人が下級生の子をレイプすることを提案する。計画は採択され、準備は進行するが、4人とも女性経験がなく、マヌケな出来事が連発! そんなこんなで決行の期日になるが……。

選評

呉 智 英

最近の青年誌で、よく見る状況設定だ。先行している作家が多いというのは、新人にとって非常に不利な要素である事を自覚しなければならない。ただ、まだ歳も若く、まだまだ試行錯誤する時間があるので、さらなる工夫を期待したい。

しりあがり寿

日常でのディテール観察などの基本はできている。ただし、物語で何も起こらないのであれば、何も起こらない中で、自分なりの味を出せるレベルには、まだ達していない。それが一番の勝負どころだと思うんだけどな。

永井 豪

おそらく意図的な気もするが、演出にメリハリがなさ過ぎる。もう少し楽しめるような描き方もあるのではないかな。クライマックスではぐらかすというのは、手法としてはわかるけど、物足りないものを感じる。



佳作『さいごのふたり』全24P

PROFILE すぎうらあきら
プロフィール

東京都在住。

受賞の言葉

はじめまして、すぎうらあきらと申します。この受賞を励みに、オモシロイ漫画を描いていきます。御期待下さい!

作品紹介

平和にひっそりと暮らしている、おじいさんとおばあさん。彼らは石と仏壇に毎日語りかけている。そんな2人の元に、腹を下した泥棒が入り込んだ。ボケた2人に振り回される泥棒! そして最後には……!?

選評

呉 智 英

今回の応募作では一番だと思う。おそらく、確信犯的に昔の水木しげる氏やつげ義春氏の作品を取り入れているように思える。大成するか全然ダメだか、どちらかだろうが、面白い試みだと評価する。ただ、現在より一層のレベルアップが必要なのは間違いない。

しりあがり寿

おもしろい個性があるのは間違いない。ただ、この方向性ならば、いつそのこと徹底的に民話風であるとか、メルヘン色を強くするなどした方が、彼の個性が発揮できるような気がします。

永井 豪

かなり昔の漫画家の影響を強く受けているのは、はっきりわかるのだが、これが今の読者に受け入れられるかどうかは微妙な所です。キャラクターはかわいいし、個性的な作風で魅力は感じるんですが……。



イラスト部門

応募
総数

433 作品

● 選考経過

イラスト部門の最終選考候補は「マジキュー・プレミアム」のイラスト大賞入賞者がノミネートされます。

最終選考候補

20 作品

選考委員

CARNELIAN、木村明広、天広直人



総評

CARNELIAN

今回、初めてえんため大賞で選考委員をさせていただきましたCARNELIANです。沢山の応募作品を拝見させていただきましたが、感想は、「プロを目指すには覇気が足りないのでは？」でした。全体を通して、以下に上げる共通点が多かったと思います。●アングルが単調でバースがない（只真横から見たアングルで腰までとか）●背景がない●女の子自体のポーズに、ひねりや、いい意味での媚がたりない。●絵柄や構図がまるっきり、プロ作家の模倣。せっかくの新人発掘、デビューのチャンスです。エンターブレインさんも、「本気」で皆さんの作品を審査しています。人より抜きん出た部分、この作品は他とは違う、そう思わせる絵の構築をしてみしてほしいです。テーマが「美少女」といって、女の子だけほんとと真ん中に描いて終わりでは、選考するサイドも願しか評価できません。そして、「顔」は美少女で絵を描かれている方ならだれしもそうかと思いますが、一番重要な部分ではあるのですが……なにより、皆さん一番描きなれているところかと思われます。見るべきところが顔だけでは、落とされる可能性大です。プロとなれば様々な人物、ポーズを描かなければいけないわけで、選考委員もそのあたりに期待できるか？ 今後の可能性は？ 等、顔だけでなくシチュエーションが描けるのかを応募作品から見出そうとしています。デビュー前の今だからできる「挑むような新人の覇気」で魅せつけてほしいです。見たいのは、無意識描き以上の「作品」です。ほしいのは「あなたのセンスと少々頭を使った計算」です。

木村明広

今回は前回に比べて大分テーマに乗っ取った作品が増えました。ただこの美少女と言うテーマはある意味美少女を描けばいいと言うものじゃない所が曲者で、皆さんある程度描ける分、決定打は他の部分という事が少なくないんですよ。もちろんキャラが可愛いと言う事は前提なんですが……。描画レベル、全体の構成、キャラがかもし出す個性、絵そのものが持つ雰囲気、等々全てを網羅するものと巡り会う事はできませんでしたが、その中の一つでも持っていると思われるものを選んだつもりです。でもまだまだ成長の余地あり。みんな頑張ってくださいね。

天広直人

テーマが「美少女」ということですが、選考の際の傾向としては、あまりケレン味たっぷりなものよりも、「生理的なこころよさ」「新鮮さ」がキャラクターや全体の世界観、雰囲気にあるかどうか、が基準の5、6割程を占めたように思います。もちろんそれだけでなく、中には、テーマとは無関係に、画力やデザイン力、人物の表現力などの「力、気迫」といった地力の部分で良いものや、人を喰ったアイデアなどで、見るべきところがあるものも残っていたようです。選考にあたっての僕達の一番の不満は、応募者ひとりあたりの応募枚数の少なさです。本当にみなさんに聞きたいのですが、1、2枚の絵で、あなたの力を全部見せたいと言い切れますか？ 受賞者のみなさんには、今後、よりアグレッシブに見る人にぶつかっていく姿勢を期待したいと思います。

優秀賞『姉妹姫』

PROFILE
プロフィール

柊 暁生
(ひいらぎあきお)

現在学生。絵を描き始めたきっかけは高橋真琴氏の「おひめさま」でした。

受賞の言葉

初めてのコンテスト参加でこのような大きな賞をいただけて光栄です。もっと魅力的な絵を描けるよう、日々精進していきたいです。



選評

CARNELIAN

まず目を引いたのは、可憐で繊細な装飾デザインでした。淡いピンクのベース色とやわらかな描線が人物の温かみを感じさせます。この作品一点では判断が付きにくいのですが、瞳や眉、第二の顔でもある手に、表現の幅の狭さを感じました。イラストレーターやキャラデザイナーは、見る人を魅了するキャラクターを作りつつつけていかなければなりませんから今後、衣装等付随するパーツを取り省いたキャラ自体の魅力の表現方法を自分なりに模索してみると、一つ上に上がる破壊力がつくと思います。

木村明広

雰囲気があるし、細かいものにも気を使って描かれている所に好感がもてます。キャラの顔描写に若干練習の余地が見られますが、仕上がりの的には問題なし。唯一問題なのは印刷された時のインパクトの薄さ。雰囲気だけでは押せないあと一発が欲しい所です。あと、感情がもっと表現できる様になれば、なお良し。できれば全身画も見たいですね。美少女絵ではないけれどレベルの高い良い絵です。

天広直人

いろいろな作品を並べたとき、不思議と目を引く作品です。線や色に対しての感受性の高さは、まだ「うぶ」な弱さに繋がっているかなと感じますが、新鮮さ、独特な美意識を感じられる艶っぽさがあって、そこにこの作品の絵としての魅力があります。受賞作2点に共通して、雰囲気はとても好感がもてるのですが、内容そのものに関しては食いたらない。表情、ポーズ(演技)、シチュエーション、などを通して、キャラクターそのものの魅力をもっと饒舌に伝えられるよう、試行してください。可能性は感じるけれど、まだ全くの未知数、という印象の人なので、これからに期待したいと思います。

優秀賞 『森のシャーベット』

PROFILE
プロフィール

野中 友
(の な か ゆ う)

福島県福島市在住。専門学校卒業後、雑誌のカット等の仕事を受けながらイラストの勉強中。

受賞の言葉

身に余る賞をいただき、ありがとうございます。うまく気持ちを表すことができないのですが、この賞をきっかけのひとつとしてこれからの私を見て頂く事で気持ちが伝えられればいいなと思います。



選 評

CARNELIAN

今風なベールトーンでまとめられた色調、漂う空気的清々しい香りまでしそうな……美しい風景画です。この作品が優秀賞である理由はソコにあると思います。キャラクターが、その「シーン」を伝える背景の中の一パーツとして溶け込みすぎていて、……キャラ単体として浮かんでこない、ゆえに美少女というテーマ、キャラクター画としては若干ハズレ気味な作品になってしまっていると感じました。センスや技量は、大変素晴らしいものを持っていると思いますので、描くモチーフ・テーマを突き詰めてプロとして描かれれば今後は楽しい作家さんだと思います。只、この系統はすでに何人かの作家さんが先駆者として世に根付いているので、野中さんらしさ、個性を磨いて更に上をめざしてほしいです。

木村明広

これはとにかく「絵の雰囲気」でしょう。でも実際みんなが魅かれたのはもう一枚の方でしたけど。これは中でも典型的な「美少女じゃない」部類です。でも絵全体から可愛さが伝わってくる様な感じ。絵はキャラだけじゃないと言う絵の代表だと思います。描画レベルで言えばまだまだ成長の余地ありますが、それが逆に魅力になっているとも言えます。これから成長していく上でこの雰囲気をなくさない様にしたいですね。

天広直人

カジュアルで気取らない、あっさりとした情感が、選考委員全員に好感を持たれた作品です。幅広い層の読者に安心感を持って受け入れられる、等身大の情感を表現することができる人だな、という印象を持ちました。媚びない自然さは、美少女というテーマを考えたときに賛否あるかもしれませんが、個人的には好感を持てる要素です。一方で、キャラクターに執拗に食いつく意識の薄さには、やはり不満をおぼえずにいられません。このキャラクターはどういう性格なのか、このシチュエーションはどういうシチュエーションなのか、このタイトルの意図は、等など、まだまだ言葉足らずです。雰囲気は大切にしつつ、でもそれだけに流されず、しっかりとビジュアルで内容を伝えられると良いと思います。

佳作『ただいま…』

PROFILE A Y A R A
プロフィール (あ や ら)

北海道札幌市在住。

受賞の言葉

正式な賞をいただくのは今回初めてでとても嬉しくびっくりしています。このたびは本当にありがとうございました。これからも今まで以上に絵に対して真摯な姿勢で努力し続けたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。

選評

CARNELIAN

黒セーラーに赤いリボン……チラッと見えるおへそがたまらなく可愛いです。技術的にはすでにプロレベルですから、後はキャラの表情のバリエーションが見てみたいですね。この女の子がふわっと笑ってくれたら……そんな一瞬の表情も見てみたい、と思いました。小道具が細かくて、見ていて楽しい一枚でした。

木村 明広

構図の取り方もよく、細々とした物へのこだわりが全体を引き締めて、いい雰囲気だと思います。ただキャラクターの表情が寂しいですね。顔から感情がまるで読み取れない。疲れて帰って来たのか、悲しい事があったのか……そういう所に気を使う事で絵から物語が生まれ、キャラに命が宿るんですよ。

天広 直人

「美少女」というテーマからは外れますが、アグレッシブな姿勢の部分で評価された作品です。色やデザインはまだまだこなれていませんが、「これから」の部分で期待させるものがあります。情報量が多いのはとても良いことですが、色の構成を含めてやや混乱気味で、キャラクターの魅力や情感の魅力につながらないのは残念です。キャラクターの魅力がストレートに伝わるよう、ピントを絞って描くことも必要です。



佳作『スクール水着』

PROFILE ゆうすけ
プロフィール

兵庫県赤穂市在住。現在は鉄工所に勤務するかたわらイラスト制作を続けている。

受賞の言葉

色々な所を意識して描きましたけど、後々まずい所が見えてきて半ば諦めかけていました。受賞の知らせを聞いて内心びっくりしています。

選評

CARNELIAN

ずばり直球な「美少女」絵です。せっかく線画は魅力的に描けているのに、彩色の方が足を引っ張って一枚絵としての完成度がいまいち低くなってしまったように見えます。どうせなら背景も写真加工ではなく、キャラクターにあわせて描くべきだと思いますし、ツールに頼りすぎて覆い焼きが過剰効果になっています。まずは陰影や光の表現を、覆い焼きツール以外で描いて、ツールの上達より前に自分の目や腕の上達を図ってみてはどうでしょうか。描けないものを逃げずに挑めば、今後楽しい作家さんだと思います。

木村 明広

描画能力は抜群です。スクール水着を狙ってくる所もあってうまいと言っておきましょう。ですがぼかしフィルターをかけ過ぎて絵全体がごまかされ過ぎてしまったのが最大の問題でした。背景が写真の塗り直しなのも残念です。キャラはとっても可愛いものだから、堂々と勝負して欲しかったです。もう一枚の馬は足が短すぎてポニーみたいでしたね。

天広 直人

テーマをひねくらず、銜いなくストレートに投げているので、見る人に非常にわかりやすいものになっています。グラビア的なキャラクターの見せ方は、絵としての面白味もあり、成功していると思いますし、かわいいキャラクターが描けるのでは、という印象も受けます。ただ、描線が効果で今一つ読み取れないという点で、本当に描けるのかどうか、の判断を留保せざるを得ませんでした。背景を含め、PCの処理に頼らず、素描力そのもので勝負して欲しいと思います。



選考委員特別賞

『砂漠の約束』

PROFILE
プロフィール

まんじゅ

埼玉県在住。第4回えんため大賞イラスト部門最終選考ノミネート。
現在WEBデザインなどフリーで活動中。

受賞の言葉

このような賞をありがとうございます。見る人に何かを感じさせる絵が描けるように、これからも頑張ります。

選 評

CARNELIAN

雰囲気があってなんとなく惹かれる……そんな一枚でした。色使いやキャラクターは、美少女……というより、どこか絵本や童話的な作風ですね。テーマから外れてしまっているのですが、どうしても気になって特別賞に入らせていただきました。この作家さんのいろいろなキャラクターが見てみたいです。

木村明広

描画レベルは文句なしです。ただ背景が付くととたんに構図があやふやになるのが気になる所。絵によって見せたいポイントがどこなのかわかりづらい感じもします。この絵は何とかうまくまとめてますが、背景にキャラが埋もれています。見せたいものをしっかり見る描き方を心掛けましょう。

天広直人

デザイン的な興味を引く小物の描写など、個人的には好感もてるスタイルで、完成度は高いと思います。ですが、それが同時にマイナス点にもつながっているのかな、と感じました。デザイン性を優先する資質の人の傾向として、キャラクター性や内容そのもの、臨場感といったものがスタイルの後ろにいつてしまうように感じます。スタイルを限定すると、内容も限定されてしまいますので、一度それを壊す位の勢いで、もっともっとキャラクターの感情、性格を表現して、臨場感ある魅力を伝えてください。



選考委員特別賞

『プリンセス・スイーツ』

PROFILE
プロフィール桜木 品
(さくらぎ あきら)

静岡県在住。

受賞の言葉

このたびは賞をいただきありがとうございます。まるで期待していなかったのでびっくりしました。大変うれしいです。

選 評

CARNELIAN

大変素直な絵柄で、小物の描画も凝った可愛い作品です。若干、女の子の胸や足のラインが硬いのが残念でした。それにしてもおいしいような洋ナシパイです(笑)。

木村明広

描画レベルはいまいちですが、全体的に楽しい雰囲気が伝わってくるのが○。背景にしっかり気を配っているのだからちゃんと絵が締まっています。もう少しデッサンやペン使いがしっかりしていればさらに評価は上がったでしょう。わざと色をシックにしていますが、絵柄的にはもっと鮮やかでも良いのでは？

天広直人

色や構成に難がありますが、内容そのものは面白いと思います。マンガ的なセンス・オブ・ワンダーの軽い面白味を前面に出す作品は、全体的にやや少なかったようなので、その意味で評価したい作品です。せっかくのアイデアなのですが、見せ方で損をしているのが残念。特にキャラクターに、型どおりの印象を受けがちです。もっとキャラクターの魅力を中心とした「見栄のきり方」を考えてみてはどうでしょうか。色、形を含め、もっとにぎやかな楽しさが伝わると良いと思います。



東放学園特別賞『新説 無月物語 The Dark Tales』

PROFILE
プロフィール靴沢 ゆうき
(くつざわ ゆうき)北海道室蘭市出身。
東放学園デジタル文芸科卒業。

受賞の言葉

皆様、今回は本当にありがとうございました。がむしやに小説を書いていた学生時代を振り返ると気恥ずかしい思いもしますが、あの頃の熱意だけはしっかりと受け継ぎ、これからも作品を書いています。

選 評

笠原次郎

えんため大賞実行委員

ある日突然自分の弟が世界から消えてしまう、という体験をした主人公の辿る不思議な物語。虚構と現実の対峙という現代的なテーマをとっているのだが、残念ながら肝心のドラマが中途半端になっている。魅力的な世界だけに残念。

東放学園特別賞『悪夢の配分』

PROFILE
プロフィール荒城 勇哉
(こうじょう ゆうや)

1999年専門学校東京アナウンス学院DCI科卒業。

受賞の言葉

賞をいただいたことは嬉しいのですが、素直に喜べないというのが正直な感想です。むしろ、応募作の未熟さに切歯扼腕する想いといった方が正しいかもしれません。この悔しさをバネに、よりよい作品を書きたいと思います。

選 評

笠原次郎

えんため大賞実行委員

現代を舞台にした謀略アクション。オーソドックスな物語に真面目に取り組んでいるところに書き手の誠実さを感じる。また、文章、構成なども破綻することなく安定しているが、その分突出している部分がないのが問題。今後の課題だろう。